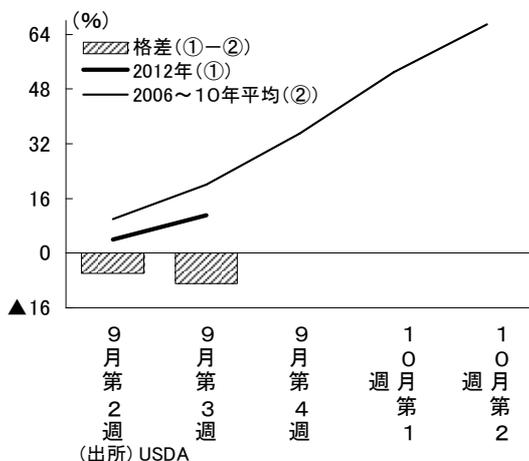


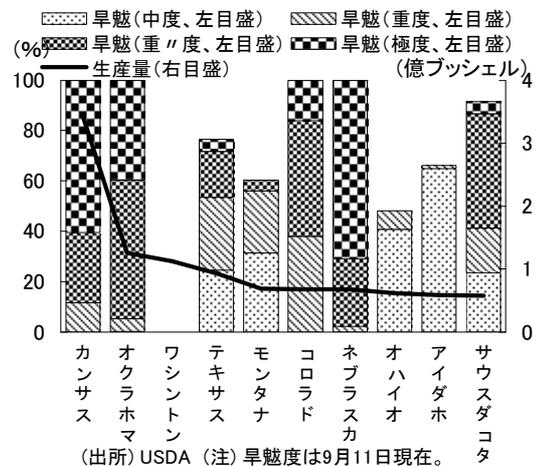
米国冬小麦への早魃影響 ～ 緩慢な植付進捗 ～

- 9月に入りモンタナ州などアメリカ北部から冬小麦の播種がスタート(図表1)。9月16日時点でワシントン州では6割と例年の4割強を大きく上回って進捗。しかしコロラド州やサウスダコタ州では例年の3割に対して14~15%など大半の州で進捗ペースが例年比緩慢。主因は早魃と熱波による土壌不良。
- 冬小麦が小麦生産全体の6~7割と過半。エリア別にはハイプレーンズが中心。州別にみると、最大はカンサス州で全冬小麦生産の2割強、次いで隣州オクラホマ州が1割弱、さらにシェア5%前後の隣州ネブラスカ州を加えると、3州で4割弱(図表2)。早魃被害は当該3州がとりわけ深刻。米海洋大気庁は早魃について①被害無し、②乾燥、③早魃、の3つに区分したうえで、早魃を中度から重度、重II度、極度まで4つに区分。3州は重度と重II度、極度の3区分で7月末からほぼ100%と未曾有の被害に。冬小麦の主要生産州は、太平洋岸のワシントン州以外、中央平原の内陸各州。各州の被害は、3州に比べると軽微ながら、時系列でみれば総じて既往最悪。
- 8月末のハリケーン・アイザックはルイジアナ州上陸後、中西部まで北上し、各地で多くの降水。降水量をみると、8月末に南部で、9月前半は中西部で平年を上回り、ハイプレーンズでも9月前半、平年差でみたマイナス幅が縮小(図表3)。一部で土壌回復への期待も。
- しかし、米海洋大気庁の週別早魃度をみると、まず全米でみて、8年半ばから週を追って深刻化(図表4)。主要な冬小麦生産エリアであるハイプレーンズでは、7年半ば以降、過去最悪が継続。とりわけ、最大の生産地である3州が位置する中央エリアが深刻。大量降水が当面期待薄ななか、植付遅延による早魃被害が同国冬小麦に拡がる懸念。

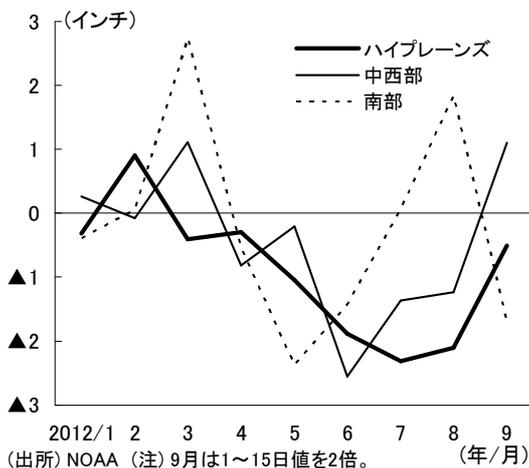
(図表1)アメリカ冬小麦の植付進捗度



(図表2)主要州の冬小麦生産量と早魃度



(図表3)エリア別降水量(平年差)



(図表4)エリア別早魃度

